



資料収集

シャチの骨格を 十勝の海岸で収集

昨年2月に、羅臼町相泊の海岸でシャチの群れが流氷にとじ込められて集団死した事件は記憶に新しいところです。

実は、その「半年後」に、こんどは十勝の海岸に打ち上げられたシャチが見つかり、骨格を当博物館で収集しました。

羅臼の事件で有名になったシャチですが、日本の周辺のシャチのことはほとんどわかっていません。この2月に開催された羅臼のシャチに関する研究集会でも生態や行動範囲などの研究の重要性が指摘されましたが、系統的な調査は当面困難な状況です。その意味で、大樹町の生花海岸で見つかったシャチの骨格は貴重な情報を提供してくれそうです。

シャチは2005年9月時点でほとんど白骨化して発見されました。死後（砂浜に打ち上げられてから）少なくとも数ヶ月は経過していると推定できます。

残っていた組織のDNA鑑定を依頼していますが、この個体と特定の群れとの関係がわかると、足寄動物群の謎の一つである「化石がたくさんみつかること」を解明するきっかけがつかめるかも知れません

骨格はあまりこわれていませんでしたが、年齢を決めるのに重要な歯は1本も残っておらず、ハクジラの特徴である耳の骨もありませんでした。

マスコミにもお願いして情報提供を呼びかける方針です。



大樹町生花海岸のシャチ（2005年9月）

2006あしよろ化石教室はじまる

19家族、48人が参加登録

第1回は足寄動物群と螺湾の貝印象化石

あしよろ化石教室がはじまりました。毎年、町内外の化石産地を訪ねて、地層を観察したり化石を発掘したりして、自然に親しむ行事として取り組んでいます。小学生や幼児をふくむ家族づれが多く、にぎやかな楽しい化石教室です。

第1回は、博物館で「足寄動物群」のアシヨロアやベヘモトプスの骨格などを観察し、デスモチルス類の重要性を知っていただきました。午後は、螺湾に移動し、およそ500万年前の「古十勝湾」に堆積した砂岩の中から貝の化石を探しました。ここの貝化石は貝殻が溶けてなくなっていますが、表面の模様は見事に保存されています。

次回は、7月9日（日）、白糠町に出かけ、3000万年前の貝化石を探します。



貝殻表面の模様は見事



子どもたちも楽しく挑戦

博物館友の会

2006年度総会を開きます

足寄動物化石博物館友の会デスモクラブは、1998年の博物館開館とともに結成され、学習会や動物園見学などの行事、博物館行事（化石教室）の支援に取り組んできました。

7月9日（日）午後4時から総会を開催します。会計や活動方針などの議事のほか、福井県立恐竜博物館研究員 一島啓人さんによる講演「福井の恐竜」をおこないます。どなたでも参加できます。

休館日 || 7月4日、11日、18日 このあと8月末まで無休

博物館の動き 7月（館の行事や職員の動き、来館団体、など）

7月 4日	阿寒湖中学校	11日	川西中学校
5日	釧路市中徹別小学校	13日	石坂小学校, 尾田小学校, 萩ヶ岡小学校
6日	川湯小学校, 磯分内小学校	14日	石坂小学校
5-7日	北海道博物館大会（紋別市・澤村出張）	19日	温根湯中学校, 鹿追町通明クラブさん
7日	阿寒湖小学校, 置戸町こじか保育園	29日	十勝圏複合事務組合ふるさと探訪ツアー
9日	あしよろ化石教室, デスモクラブ総会	9-12日	一島啓人さん（福井県立恐竜博物館）来館
10日	帯畜大牛歩の会	29~	犬塚則久さん（東京大学）来館